



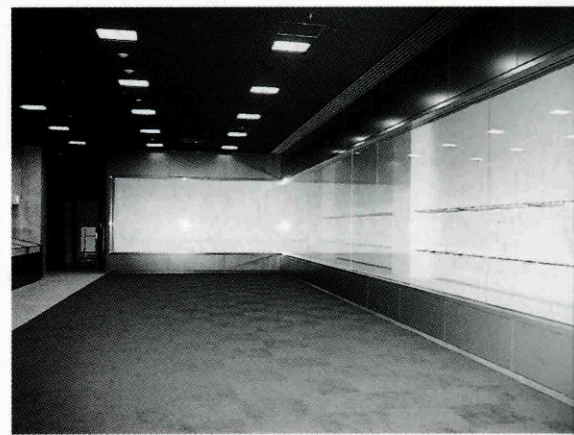
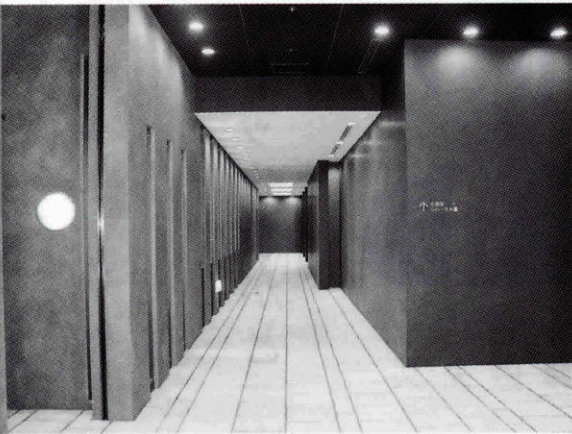
建設着工までの

長い道のり

これまで市民館（または文化ホール）と総合体育館がないのは、14市の中では長門市のみでした。

そこで、大きな大会等が開催できる「コンベンションホール」を設置してほしいと、早くから県に要望しておりましたが、「長門広域が要望するような施設はすべて各自自治体では自前で建設されており、県が設置しなければならぬ根拠が全く見当たらない」と言われ続けてきました。

粘り強い取り組みの決め手となったのは、近松をはじめとした文化のまちづくりであり、「県内に本格的な芸術劇場を長門に設置する」と、県の格別な英断をいただくこととなったものです。



▲文化情報ギャラリー

全国トップクラスの

の舞台機構

映画・音楽祭など多目的利用可

広いステージと812席のゆったりとした客席、回り舞台やせり、花道などが完備しており、東京の国立小劇場に優るとも劣らない国内トップクラスの舞台機構を備えております。

この施設は、歌舞伎・文楽以外に演劇や音楽祭、楽器演奏、民謡や詩吟の発表会、文化講演会、映画会など幅広く誰もが利用することができます。

照明、音響も特に配慮されており35ミリ最新鋭映写機による映画鑑賞は、市民のみなさんに満足いただけるものと思います。



建設費53億余り

基礎的な維持費も県費補助

は全額県費負担

文化ホール部分の建築や機械設備、備品等総事業費は約53億7千万円ですが、全額県が負担されるもので市の負担はありません。

維持管理費につきましては、特殊な舞台機構を備えていることから、保